

平成30年度

## 第2回木更津市史編集委員会

日 時 平成31年 3月26日(火)

午後3時00分から

場 所 木更津市役所朝日庁舎会議室E

1. 開 会
2. 委員長あいさつ
3. 教育長あいさつ
4. 議 題 『木更津市史』刊行計画の見直しについて(2)
5. その他 報告事項
6. 閉 会

## 議 題

『木更津市史』刊行計画の見直しについて(2) ※別紙資料参照

## 報告事項

1 木更津市史編集部会の活動状況(平成30年4月～平成31年2月) ※別紙資料参照

2 木更津市史編さん事業公開講座「明治150年記念 木更津地域から見た明治」

日時 平成30年12月22日(土) 午後2時～午後4時30分

会場 木更津市民会館 中ホール

講師 (1) 木更津市史編集委員会 委員 實形 裕介氏

(2) 木更津市史編集部会 部会長 池田 順氏

内容 (1) 講演「戊辰戦争150年 脱藩大名・林忠崇の戊辰戦争」

2018年は戊辰戦争150年の節目の年でもあり、木更津ゆかりの人物として請西藩主・林忠崇が注目される。揺れる藩論のなかで、なぜ藩主は「脱藩」を決断したのか。戦い抜いたすえ完全に取り潰しとなった藩の動向とは。藩を捨ててまで新政府軍に挑んだ青年大名の生き様について講演。

(2) 講演「明治150年記念 木更津地域から見た明治」

地域に視点をあてたとき、明治という時代はどのように見えてくるのか。文豪夏目漱石は、日本が明治末に欧米と肩を並べる「一等国」となったとする見方に疑問を投げかけ、この漱石の言葉を手がかりに、木更津地域の事例をとおして明治という時代について講演。

入場者 133名(一般・来賓含め)

3 刊行物の発行状況及び予定

『木更津市史編さんだより』第3号(平成30年11月3日発行)

『木更津市史研究』第2号(平成31年3月末)

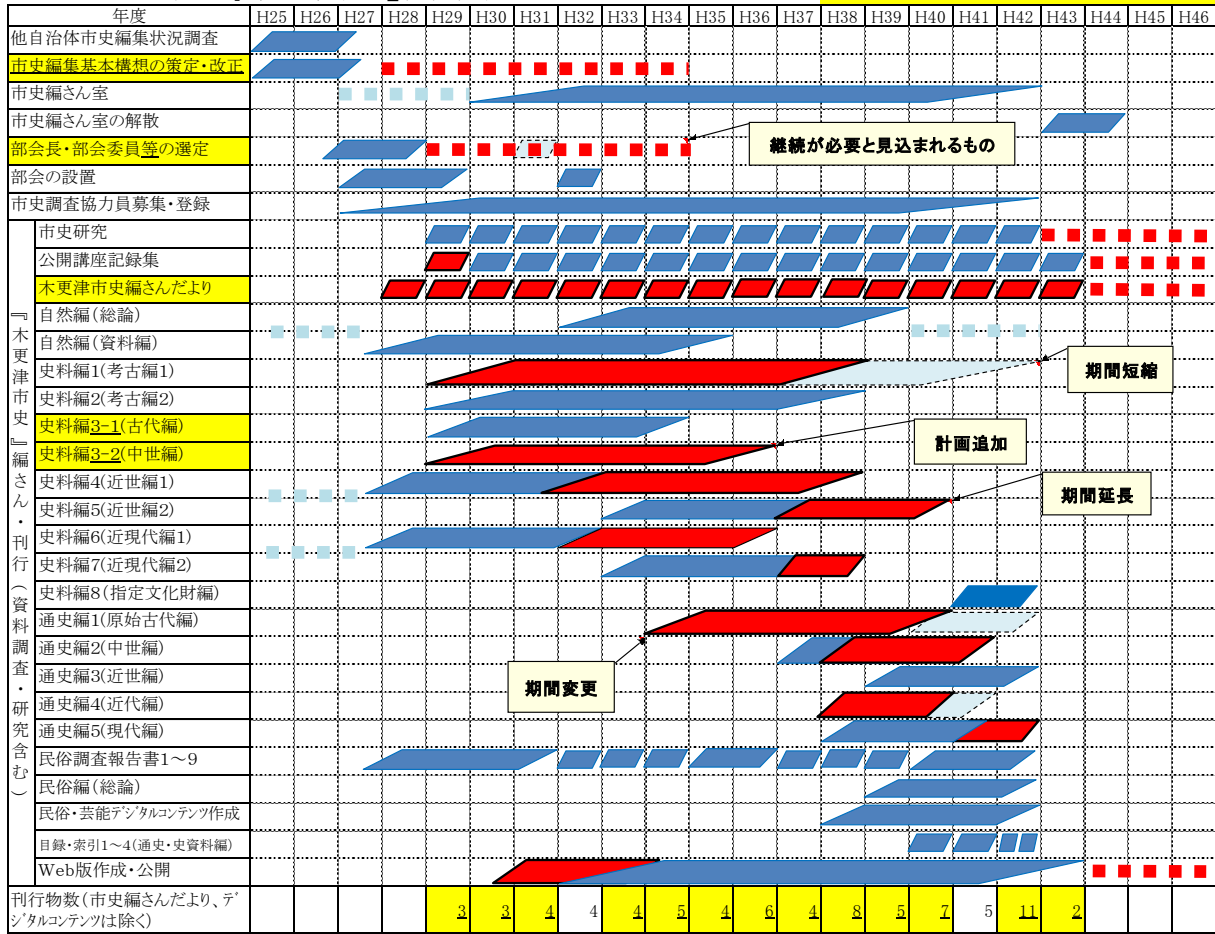
『木更津市史編さん事業公開講座記録集』29年度版(平成31年3月末)

## 木更津市史編集委員会

実施日程	内 容
平成30年度 第1回木更津市史 編集委員会(7月 30日)	議題 『木更津市史』刊行・発刊計画の見直しについて 『木更津市史』(通史編)の構成について
第2回木更津市史 編集委員会(3月 26日)	議題 『木更津市史』刊行計画の見直しについて(2)

別表4 『木更津市史』刊行計画

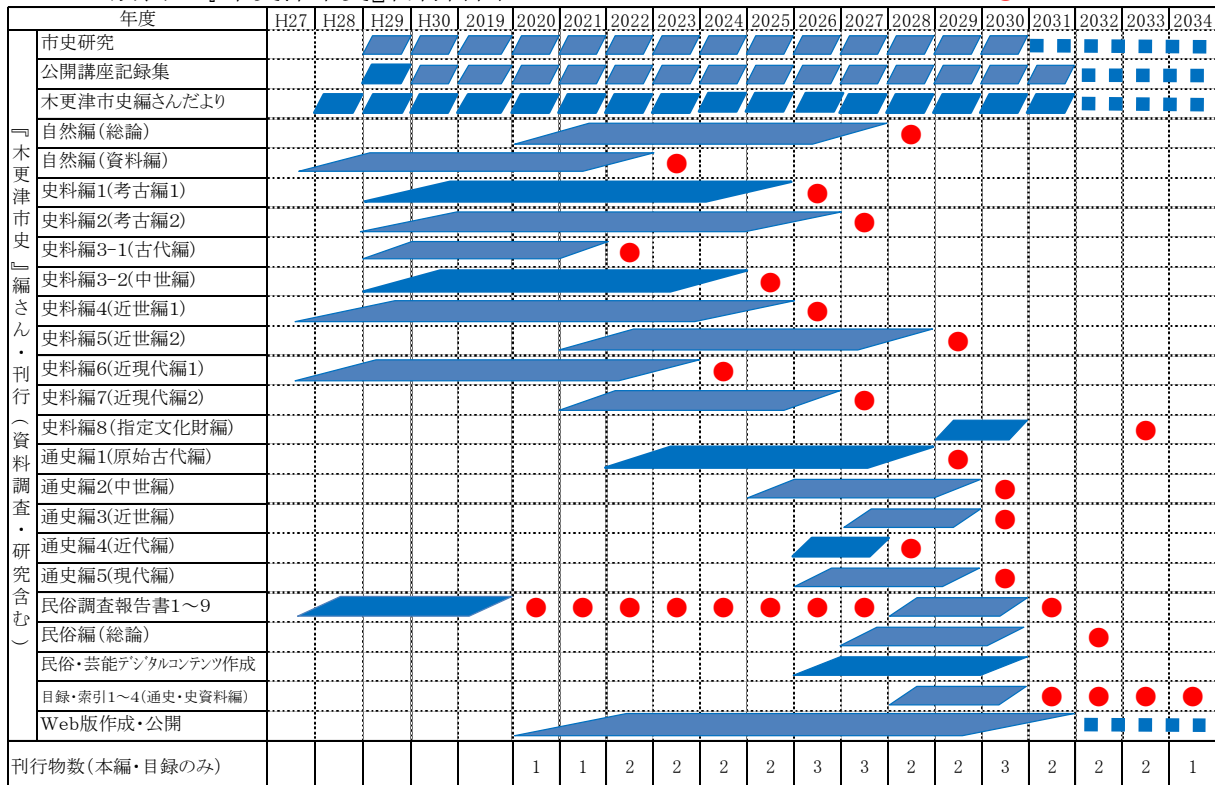
※ ■■■ は、事前準備・継続業務等



別表4 『木更津市史』刊行計画

※ ■■■ は、継続業務

● は、本編・目録の刊行年度



木更津市史編集部会 各専門部会長・委員・調査員名簿

考古部会		古代部会		中世部会	
部会長	加藤修司	部会長	河名 勉	部会長	滝川恒昭
部会委員	阿部昭典 上野祥史 小高春雄 島立 桂※1 本間岳人※3	部会委員	吉井 哲※1 石和田秀幸 服部一隆※3	部会委員	川戸貴史 盛本昌広 湯浅治久 柴 裕之※2 丸島和洋※4 小高春雄 本間岳人※3

部会長 7名  
部会委員 39(45)名  
調査員 7(8)名  
合計 53(60)名  
※( )内数字は兼務を含めた数

近世部会		近現代部会		民俗部会		自然部会	
部会長	小関悠一郎	部会長	池田 順	部会長	和田 健	部会長	山田 真
部会委員	川崎史彦 實形裕介 菅根幸裕 本間岳人 渡邊義孝 大橋智子 五味玲子※2 松永瑠成※7	部会委員	栗原克榮 駒 早苗 高木澄子 渡邊義孝 大橋智子 森脇孝広※5 吉村英和※5	部会委員	田村 勇 松田睦彦 菅根幸裕 島立理子※1 入江英弥※3 小田島高之※1	部会委員	相澤敬吾 篠崎 貞 田村 満 成田篤彦 湯谷賢太郎※2 谷城勝弘 木暮文雄 斎木健一※8 山本伸子※8 大作晃一※6
調査員	黒田千尋※2 鈴木 凜※2 菅谷祐輔※2 佐々木柚香※4 伊藤静香※7 関根玲奈※7	調査員	大河原 瞳※7	調査員	佐々木柚香※4		

木更津市史編集部会調査等進捗報告

部 会 名	考古部会	部会長名	加藤 修司
-------	------	------	-------

<p>平成 30 年 1 月 から平成 31 年 2 月までの実施 内容・進捗状況</p>	<p>1 旧石器時代（島立）各遺跡の実測図と写真が使用できるか精査している。古い発掘報告書からコピーして切り貼りするアナログ的な方法では印刷に耐えられない。現状では再実測する方法がない。</p> <p>2 縄文時代（阿部）遺跡台帳を継続して作成中。</p> <p>3 弥生時代及び全体概要、遺跡台帳（加藤）アドビイラストレーターにより、デジタル地図（国土地理院最新版）の中に、「請西遺跡群」の各遺跡（11 遺跡）の分布図を書き込んだ。パソコン上で、木更津市全体が見えるスケールから、請西地区の各戸が見える大きさまでズームアップして遺跡範囲を確認することができる。各遺跡の原稿完成。挿図・写真のスキャニング完了。弥生時代遺跡台帳はほぼ完成しているが、記載方法等他の時代との調整は未実施。共通仕様を継続して検討中。</p> <p>4 古墳時代（上野）古墳台帳作成中。各重要古墳の論文等分析・研究中。稲荷森古墳、祇園・長須賀古墳群原稿完成、挿図、写真スキャニング完了。</p> <p>5 古 代 担当者未就任につき未着手</p> <p>6 中 世（小高）現地での詳細調査(実測、銘文調査、写真撮影等)の継続、板碑の実見、真里谷城の原稿完成、挿図、写真スキャニング完了。</p> <p>7 石造物（本間）市内の悉皆調査継続中、約 50 か所、原稿執筆中。</p>
<p>これまでの取 組に係る課題 点・懸案事項</p>	<p>1 挿図、写真のデジタルデータの作成について、古い時代の発掘調査報告書からでは極めて困難な場合がでてきた。最終的には高精度スキャニングを実施すべきであるが、機器の用意とマンパワーがない。事務局雇用の「臨時職員」との作業調整もスムーズにいかない。</p> <p>2 中世の現地調査において地主や所有者の十分な理解が得られない場合があった。</p> <p>3 弥生時代と古代の情報量が極めて多いため、編集方針及び担当者増の可否について事務局と協議を行いたい。</p>
<p>平成 31 度の活 動計画</p>	<p>1 古代の担当者について事務局と協議の上最終選定を行う。</p> <p>2 平成 31 年 2 月 24 日の全体会議で共通理解した書式に基づき、各時代担当者は各遺跡の原稿執筆を進めていく。</p> <p>3 中世の現地調査、石造物調査の悉皆調査は継続して実施するが、地主や所有者とのスムーズな交渉のため、事務局との調整を密にして実施する。</p> <p>4 デジタル遺跡地図の作成のために、旧地形図のデジタル作成は小高氏、最新都市図のデジタル作成は加藤が継続して進める。</p> <p>5 デジタル挿図、写真の作成に際し、「臨時職員」に具体的な指示を出せるよう、部会長が各担当者との連絡調整を密にする。</p> <p>6 遺跡台帳の共通仕様について継続して進める。</p>

木更津市史編集部会調査等進捗報告

部 会 名	古代部会	部会長名	河名 勉
-------	------	------	------

平成 30 年 1 月 から平成 31 年 2 月までの実施内容・進捗状況	<p>平成 30 年 1 月 6 日 古代部会第 8 回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『千葉県史資料編古代』 303～352 頁を基礎に採録史料の選択作業</li> <li>・上総国から常陸国への外洋交通について</li> <li>・近年の 7 世紀画期論について</li> </ul> <p>1 月 27 日 古代部会第 9 回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『千葉県史資料編古代』 353～402 頁を基礎に採録史料の選択作業</li> <li>・『延喜式』と『倭名類聚抄』の郡名記載順の違い</li> <li>・院政期の房総の国司</li> </ul> <p>2 月 24 日 ①古東海道の調査 姉崎－椎津坂遺跡－藤井堰－丹過遺跡</p> <p>②古代部会第 10 回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『千葉県史資料編古代』 403～454 頁を基礎に採録史料の選択作業</li> </ul> <p>3 月 17 日 古代部会第 11 回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『千葉県史資料編古代』 455～507 頁を基礎に採録史料の選択作業</li> <li>・久留里街道西往還と上総国古東海道について</li> <li>・今後の作業日程と入稿原稿の検討方法について</li> </ul> <p>4 月 15 日 古代部会第 12 回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『木更津市史 史料編古代中世編』入稿原稿の検討 『令集解』 賦役令調絹絶条、『旧唐書』、『古語拾遺』、『日本後記』等</li> <li>・総国の上総と下総の分割について</li> </ul> <p>6 月 2 日 古代部会第 13 回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『木更津市史 史料編古代中世編』入稿原稿の検討 『令集解』 賦役令調庸条、『古事記』等</li> <li>・馬来田国造の氏姓の可能性</li> </ul> <p>6 月 30 日 古代部会第 14 回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『木更津市史 史料編古代中世編』入稿原稿の検討 『正倉院文書』上総細布、『古事記』等</li> <li>・上総細布、坂戸地名考について</li> <li>・事務局との今後の作業について打ち合わせ</li> </ul> <p>7 月 22 日 古代部会第 15 回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『木更津市史 史料編古代中世編』入稿原稿の検討 『正倉院文書』経師貢上文、『日本書紀』等</li> <li>・亙理郡望多郷有力氏族考</li> <li>・房総の写経生の特質</li> </ul> <p>8 月 19 日 古代部会第 16 回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『木更津市史 史料編古代中世編』入稿原稿の検討 『正倉院文書』駿河国正税帳、『先代旧事本紀』、『続日本紀』等</li> <li>・弟橘媛伝説</li> </ul>
---------------------------------------	---

	<p>9月22日 古代部会第17回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>『木更津市史 史料編古代中世編』入稿原稿の検討 『正倉院文書』仕丁送文、『日本書紀』、『日本後記』等</li> <li>馬来田の嶺ろ</li> </ul> <p>10月28日 古代部会第18回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>『木更津市史 史料編古代中世編』入稿原稿の検討 『東大寺要録』、『日本書紀』、『続日本後記』等</li> <li>上総国の封戸について</li> </ul> <p>11月18日 古代部会第19回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>『木更津市史 史料編古代中世編』入稿原稿の検討 『正倉院文書』法華寺造金堂所解、『日本書紀』</li> <li>正倉院文書にみる望陀布の使途</li> </ul> <p>12月22日 古代部会第20回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>『木更津市史 史料編古代中世編』入稿原稿の検討 『正倉院文書』造寺雑物請用帳、『日本書紀』等</li> <li>東大寺の封戸から菅生荘へ</li> <li>防人・戍人・兵士木簡用字考</li> </ul> <p>平成31年2月10日 古代部会第21回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>『木更津市史 史料編古代中世編』入稿原稿の検討 『正倉院文書』写経所浄衣雑物注文、『日本書紀』、『日本文徳天皇』等</li> <li>上総布について</li> </ul>
<p>これまでの取組に係る課題点・懸案事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>『木更津市史 史料編古代中世編』は、古代編と中世編を分離し、古代編単独で刊行できないか。</li> <li>『木更津市史 通史編原始古代編』は、「大化の改新」を区切りとして、原始編と古代編を分離し、古代編単独で刊行できないか。</li> <li>『木更津市史 史料編古代中世編』の刊行後、5年後に通史編の編集開始となると、間隔が開きすぎる。部会員の年齢等を考慮すると、史料編の刊行と連続して、編集開始にならないか。</li> </ul>
<p>平成31度の活動計画</p>	<p>古代史料編の活動計画案は、次のとおりである。</p> <p>1年目 採録史料の選択作業</p> <p>2～5年目 入校原稿の作成作業（採録史料を原史料から作成し、内容を検討し、採録範囲と頭注の作成）。「史料」の解題作成。</p> <p>6年目 校正作業</p> <p>平成31年度は、平成30年度に引き続き入稿原稿の作成作業を進める計画である。</p> <p>入稿原稿の作成作業の2か年目となる。</p>

木更津市史編集部会調査等進捗報告

部 会 名	中世部会	部会長名	滝川 恒昭
-------	------	------	-------

<p>平成 30 年 1 月 から平成 31 年 2 月までの実施 内容・進捗状況</p>	<p>2月24日 第3回中世部会（於木更津市公民館） 部会内における役割分担の確認と、具体的な作業確認。また市域・県内外の、調査先の選定と実施についての検討。4月からは、各自が分担にしたがって、それぞれ活動してもらうことの申し合わせ。</p> <p>6月30日 第4回中世部会（於千葉県文書館） 文書館に収蔵されている、千葉県史編さん時の各種資料の確認および情報収集。その後部会を文書館において実施。</p> <p>8月29日 第5回中世部会（於東京大学史料編纂所） 東京大学史料編纂所に架蔵されている影写本・謄写本・写真帳などの検索調査を全員で実施。その後同所において今年度の調査について検討。特に高野山調査の実施が決定したことを受け、限られた期日のなかで効果を上げるべく、入念な事前準備を行うことに決定。</p> <p>10月5日 高野山調査に参加する部会委員全員（新規の丸島氏を含む） で、東京大学史料編纂所において事前調査。その後東京大学において丸島氏を講師に、高野山調査に際しての事前学習および注意事項といった最終打ち合わせを実施。</p> <p>10月26～28日 高野山櫻池院において、東京大学史料編纂所と合同で、同院所蔵の過去帳・旦那帳・古文書等の調査・写真撮影を実施。最終日は滝川・丸島によって、同院所蔵史料の最終調査と片付け。その後房総との関連が深い他の宿坊（蓮華三昧院他）に聞き取り調査および調査依頼を実施。今回調査・撮影した史料の大半は、未翻刻にして未紹介のものであるため、来年度以降に本格的検討を実施する予定。</p> <p>12月1日 木更津市内寺院調査（長楽寺・高蔵寺等）。その後駅前コミュニティーにおいて、第6回中世史部会を実施。長楽寺では、所蔵の仏像胎内銘や聖教類・古文書等の写真撮影や聞き取り調査を実施。また部会では、今後全体的な部会は年間1～2回程度とし、時代ごとに決めた分担に沿って、今後の調査活動をしていくことが中心とならざるを得ないことを部会員で確認。 ※その後山梨県において上総武田氏関係の調査の具体的な手順、担当を決め、調査を実施する予定だったが、対象史料の所在が特定できないために、今年度の実施は見送りにした。また個人では千葉県立中央図書館・千葉県文書館・横浜市立歴史博物館・寒川町文書館等で分担計画に基づいた調査を実施。</p> <p>3月1日 国立歴史民俗博物館で、中世前期担当による調査。</p>
<p>これまでの取組に係る課題点・懸案事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他の部会（例えば近世史）との連携（現時点では合同調査）をどう図るか。</li> <li>・調査の際の移動・機材・人員（事務局スタッフ）の問題。</li> <li>・現在進行している他の自治体史（例えば茂原市史）との調査時における連携をどう図るか。</li> <li>・長楽寺のように、木更津市内に直接関係しないものではあるが、貴重な中世史料が存在する場合、今後どのように扱うのか。</li> </ul>



平成 31 度の活動計画	部会は年間 1～2 回程度 それに代わって中世前期・後期といった小委員会で会合を適宜実施。 分担計画により、各自が責任をもって調査を実施。木更津市内では、市内寺社を中心に、個人宅なども視野に入れた調査を計画中。 県外としては、国立資料館・寒川町文書館・山梨県・京都府等を考えている。
--------------	--

木更津市史編集部会調査等進捗報告

部 会 名	近世部会	部会長名	小関 悠一郎
平成 30 年 1 月 から平成 31 年 2 月までの実施 内容・進捗状況	<p>I 川魚店所蔵資料について、近世史料の写真撮影を行った（終了）。 市立図書館所蔵長澤文庫の写真撮影を行った（終了）。 下郡 S 家文書の袋詰め、目録作成を行った（近世預かり分の 8 割程度目録作成済）。 田川 S 家の襖下張り文書の目録作成を行った（3 割程度作成済）。茅野 O 家の現地史料調査を実施し、O 家文書の目録作成を行った（近世預かり分の 9 割程度作成済）。 小浜 O 家の現地史料調査を実施し、O 家文書の目録作成・写真撮影を行った（近世預かり分は概ね作成・撮影済）。 有吉区有文書の現地史料調査を実施し、全点写真撮影を行った。 次の諸家・機関等において、訪問・聞き取り調査を実施し、史料所在の確認を行った。 中央 O 家（以上木更津地区）、富来田公民館〈稲木館長〉、下郡 S 家、茅野 O 家、田川地区諸家（以上富来田地区）、小浜 O 家他、大久保 S 家・I 家（以上波岡地区）、中郷公民館〈H 氏、W 氏、M 氏〉、有吉公会堂、井尻 鳥海家（以上中郷地区）、犬成 S 家・Y 家、祇園 K 家、須賀神社（以上清川地区）、K 家（以上金田地区）、請西 I 家、桜井谷 K 家（以上真舟地区）。鎌足地区・巖根地区は今年度実施無し。</p>		
これまでの取 組に係る課題 点・懸案事項	<p>次年度も整理作業の必要な新出史料が見出されることが見込まれ、市史編さん以外の機会に既に調査された史料についても再整理・撮影作業が必要になる見込みである。近世史料は分量が多く崩し字の読解が求められるため、作業要員・時間の確保を一層工夫する必要がある。 上記のことと関わって、部会間の連絡および史料所蔵者等との諸調整、また、調査・編集に必要な諸事務作業を円滑化するため、専任でそうした実務にあたる事務局員が必要と考える。 収集資料の保存について、市としての本格的検討が必要である。</p>		
平成 31 度の活 動計画	<p>八劔八幡神社（以上木更津地区）、T 家(2 家)、H 家、有吉行人宿、M 家（以上中郷地区）、富来田地区・巖根地区・鎌足地区の諸旧家について、史料所在確認調査を実施する。 田川 S 家の襖下張り文書の目録作成を行う。 下郡 S 家文書について、近世分の目録を完成させるとともに、撮影史料の選定と撮影を行う。 袖ヶ浦市郷土博物館収蔵の佐久間家文書について、史料閲覧調査を実施し、写真撮影等を行う。 慶應義塾大学所蔵史料について、史料閲覧・撮影調査を実施する。</p>		

木更津市史編集部会調査等進捗報告

部 会 名	近現代部会	部会長名	池田 順
-------	-------	------	------

<p>平成 30 年 1 月 から平成 31 年 2 月までの実施 内容・進捗状況</p>	<p>(1) 機関等調査 ①千葉県文書館 新聞の木更津市域に関する記事の選定・撮影等を行った (1 割程度終了)。 ②金のすず H 家資料など所蔵資料の袋詰め・撮影等を行った (2 割程度終了)。 ③金田公民館 旧金田村役場文書、家文書などの選定・撮影等を行った (終了)。 ④木更津市立図書館 富来田地区行政文書の目録作成、選定・撮影を行った (終了)。 ⑤富岡小学校 沿革誌の撮影を行った (終了)。</p> <p>(2) 家文書調査 ①S 家 (下郡) 資料の袋詰め・目録作成・撮影等を行った (4 割程度終了)。 ②S 商店 (新田) 資料の袋詰め・撮影等を行った (5 割程度終了)。 ③I 川魚店 (貝渕) 資料の袋詰め・目録作成・選定・撮影を行った (終了)。 ④W 家 (下望陀) 資料の袋詰め・目録作成・選定・撮影を行った (終了)。 ⑤O 家 (茅野、近現代部会借用分) 資料の袋詰め・目録作成・選定・撮影を行った (終了)。 ⑦O 家 (小浜) 資料の袋詰め・目録作成・選定・撮影を行った (終了)。 ⑧W 家 (畑沢) 資料の袋詰め・目録作成・選定・撮影を行った (終了)。 ⑨M 家 (波岡) 資料の袋詰め・目録作成・選定・撮影を行った (終了)。 ⑩T 家 (金田) 資料の袋詰め・目録作成・選定・撮影を行った (終了)。 ⑪T 家 (高柳) 資料の撮影を行った (終了)。 ⑫M 家 資料の撮影を行った (終了)。 ⑫Z 家 (下郡) 資料の袋詰め・目録作成・選定・撮影を行った (9 割程度終了)。 ⑬S 家 (矢那) 資料の袋詰め・目録作成・選定・撮影を行った (3 割程度終了)。 ⑭O 家 (中央) 保存資料の確認を行った。</p> <p>(3) 聞き取り調査 11 人の聞き取り調査を実施した。</p> <p>(4) フィールドワーク・建物調査 鎌足地区・桜井地区・畑沢地区・吾妻地区のフィールドワークを行い、S 家、S 商店、I 家、O 家などの建物調査を実施した。</p>
<p>これまでの取 組に係る課題 点・懸案事項</p>	<p>肝心の旧木更津町に関する資料調査があまり進んでいない。至急、行政文書の調査ができるよう関係部署との交渉を進める必要がある。それとともに、かつて千葉県史料研究財団がマイクロ撮影した木更津市役所文書の複製資料を、千葉県文書館から借用できるよう文書館との交渉を行ってほしい。当分、「金のすず」が利用できなくなるので、S 菱田家資料を旧保健相談センターへ移し、調査が継続できるようにしてほしい。</p>

<p>平成 31 度の活動計画</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①千葉県文書館で、新聞の木更津市域に関する記事の選定・撮影等を行う。</li> <li>②H 菱田家文書の袋詰め・目録作成・選定・撮影を行う。</li> <li>③S 家文書の袋詰め・目録作成・選定・撮影を行う。</li> <li>④S 商店文書の袋詰め・目録作成・選定・撮影を行う。</li> <li>⑤I 家文書の袋詰め・目録作成・選定・撮影を行う。</li> <li>⑥O 家所蔵資料を借用し、袋詰め・目録作成・選定・撮影を行う。</li> <li>⑦潮見庁舎倉庫に保管されている木更津市役所文書の選定・撮影などを行う。</li> <li>⑧畑沢土地区画整理組合資料の袋詰め・目録作成・選定・撮影を行う（調査について内諾済み）。</li> <li>⑨市内小中学校所蔵資料の調査を行う。</li> <li>⑩漁業関係資料の調査を行う。</li> <li>⑪聞き取り調査を続行する。</li> <li>⑫資料調査のためのフィールドワークを続行する。</li> <li>⑬歴史的建造物の調査を続行する。</li> </ul>
---------------------	---

木更津市史編集部会調査等進捗報告

部 会 名	民俗部会	部会長名	和田 健
平成 30 年 1 月 から平成 31 年 2 月までの実施 内容・進捗状況	<p>木更津地区、金田地区を中心に以下の 2 点を中心に作業を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>八劔八幡神社例祭に関わる文献、資料のアーカイブ化（部会長が整理保管）</li> <li><input type="checkbox"/>木更津地区を描いた地図の収集と分析 <ul style="list-style-type: none"> <li>・鳥瞰図、行政所掌のものおよび八劔八幡神社氏子会が製作したものの収集</li> <li>・昭和 4 年、9 年、11 年の鳥瞰図比較、および地図内に記された企業名の整理</li> <li>・木更津例祭各町内行事の比較</li> </ul> </li> <li><input type="checkbox"/>木更津地区小、中学校学年暦および町内行事の確認。</li> <li><input type="checkbox"/>（旧）上総博物館収蔵資料における民俗関係資料の確認。</li> <li><input type="checkbox"/>木更津地区生業活動状況（炭の運搬や地区内の交通事情など）について、統計資料からの分析</li> <li><input type="checkbox"/>金田地区での島畑と称する畑と田んぼの関係についての調査。</li> <li><input type="checkbox"/>平成 29 年度に引き続いて、八劔八幡神社祭礼の調査を行う。</li> <li><input type="checkbox"/>木更津地区貝枝神社、子安神社等における聞き取り調査。</li> </ul>		
これまでの取 組に係る課題 点・懸案事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・聞き取り調査の準備が不足している。重点的な活動計画を立てて行わないといけない。</li> <li>・地図や統計資料の整理がまだ十分ではない。聞き取り内容に照らすための作図活動が必要である。</li> <li>・既存の成果物に資料価値に高い刊行物（『きさらづの民話』など）があり、それを活用した具体的な執筆計画を立てる必要がある。特に地名や口承文芸に関しては、重要な検討が必要である。</li> </ul>		
平成 31 度の活 動計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・木更津地区の社会組織および年中行事、人生儀礼に関わる調査活動に重点を置く。</li> <li>・生業あるいは信仰については、すでにこの地区に関わる調査を行った有識者に相談をして、調査の指針および執筆の計画を具体的に詰める。</li> <li>・民俗芸能については、これまでの調査内容を活字化すること。地名や口承文芸に関しては、既存の成果物との関わりを留意しながら</li> <li>・金田地区の民俗調査活動も継続的に計画を立てて行う。</li> </ul>		

木更津市史編集部会調査等進捗報告

部 会 名	自然部会	部会長名	山田 真
-------	------	------	------

<p>平成 30 年 1 月 から平成 31 年 2 月までの実施 内容・進捗状況</p>	<p>環境分野</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・牛込海岸アマモ場周辺の底生生物調査は概ね終了</li> <li>・盤洲干潟現状植生図の作成のための植生調査は終了</li> <li>・木更津市の水環境に関する資料収集とまとめは 50%程度の進捗</li> <li>・浸透実験池の水質に関する市史研究原稿の執筆</li> <li>・盤洲干潟後背湿地のヨシ群落面積の変遷に関する市史研究原稿の執筆は進捗 20%程度</li> </ul> <p>地学分野</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市史・本編の原稿の下書き             <ul style="list-style-type: none"> <li>第 1 節 木更津市の地形                     <ul style="list-style-type: none"> <li>地形の概説、1 上総丘陵 2 木更津台地 3 小櫃川低地</li> <li>4 小櫃川河口三角州</li> </ul> </li> <li>第 2 節 木更津市の地質                     <ul style="list-style-type: none"> <li>1 上総層群、2 下総層群の概説および各累層個々の各説</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul> <p>動物分野</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・木更津市産両生類の種、分布（中間報告）市史研究に投稿</li> <li>・木更津市産バッタ目の総種目録と生息環境（中間報告） データー一覧、種リストの作成終了 市史研究投稿案作成中</li> <li>・カメムシ類の採集と文献の収集 約 30%終了</li> <li>・甲虫類などの採集と文献の収集 約 30%終了</li> <li>・哺乳類などのアンケート調査の実施 小学校理科教員対象終了</li> <li>・相澤委員と合同で哺乳類のデーター一覧（仮）の作成終了</li> <li>・鳥類の主要定点を継続調査             <ul style="list-style-type: none"> <li>過去の未発表データー(2004～2017 年分)のうち重要な情報を追加 2018 年分を入力中(入力 70%終了)</li> </ul> </li> <li>・魚類の補完調査（調査 90%終了）</li> <li>・文献調査・木更津市内の魚類リスト（50%終了）、鳥類リスト（50%終了）を作成した。</li> <li>・市史自然部会「資料編」のデーターとして、鳥類と魚類のリスト類を編集中（30%終了）</li> <li>・市史研究第 2 号に「木更津市の汽水・海水魚」を投稿</li> <li>・哺乳類・トンボ目の調査データーおよび市内生息種リスト中間集計</li> <li>・蛾・ハチ・甲虫・ハエ・カメムシ・クモ・水生動物・その他の調査データー集計(2/3 程度終了)</li> <li>・市立図書館の自然誌関連文献のエクセルデーター化・要約(1/2 終了)</li> <li>・市史研究 創刊号 調査報告「東京湾小櫃川河口干潟のシオマネキについて」市史研究 第 2 号 調査報告「木更津市の蝶」</li> </ul> <p>植物分野</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県立中央博物館との植物合同調査</li> </ul>
---	---

	<p>10回実施 47メッシュを調査 進捗状況:81.5%終了 調査済 141メッシュ/計画メッシュ 173 (12/5時点での状況)</p> <p>・巨樹・巨木調査 5回実施 107本調査 進捗状況:26.8%終了 調査済 107本/計画 400本 内容:巨樹(幹周5m超) 8本 巨木(幹周3~5m) 61本</p>
<p>これまでの取組に係る課題点・懸案事項</p>	<p>地学分野</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・館山道以西は市街化が進行しており、露頭（地層がみられる崖）がほとんどない。そのため、過去の文献に頼らざるを得ないが、容易に入手できないものもある。</li> </ul> <p>動物分野</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料集作成の目次、頁数の割り振り（案）の作成</li> <li>・バッタ目の樹上性種及び海岸性昆虫の調査</li> <li>・カメムシと甲虫のデータ一覧（仮）の作成</li> <li>・自然部会委員、調査員、協力員の候補者の選定及び増員</li> <li>・鳥類調査では、夜行性鳥類、ねぐらを形成する鳥類、集団繁殖する鳥類の調査が不十分である。</li> <li>・魚類調査では、畑沢川と小櫃川本流が不十分である。水量が多い小櫃川本流はタモ網以外の採集を考える必要がある。</li> <li>・鳥類 230種の調査データ、写真記録が多く整理に時間がかかる</li> <li>・種目録データ・種リスト作成に関する労力・作業量</li> <li>・各動物群のバランス</li> <li>・新たな動物群に関する調査の試み 例：原生生物（プランクトン） 行政資料やネット情報などを基に展開可能か</li> <li>・環境・地学など生物以外分野である文献記録様式の差異について エクセルデータの形式での統一を試みる</li> </ul> <p>植物分野</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県立中央博物館との合同調査及び巨木調査で個人所有の山林などに入るとき、必要な場合は事前承認の連絡をお願いしたい</li> </ul>
<p>平成 31 度の活動計画</p>	<p>環境分野</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・底生生物リスト完成と清書</li> <li>・本文部分の一部作成</li> <li>・過去のヨシ群落の変遷図の作成と市史研究原稿の執筆</li> </ul> <p>地学分野</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・原稿の推敲および図の大きさなどのページレイアウトを進め、本編の原稿として使用できるもの（案）とする</li> <li>・第3節木更津市の地史（木更津市域の大地の生い立ち）の下書きを進める予定</li> </ul> <p>動物分野</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・バッタ目の補完調査 樹上性種の採集、同定</li> <li>・海岸性昆虫の採集と同定</li> <li>・カメムシ類の採集と同定と甲虫のデータ一覧（仮）の作成</li> <li>・その他 陸生脊椎動物、アメンボ類などの水生昆虫、陸産貝などの補完調査</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鳥類、魚類の補完調査を継続、入力作業の完了</li> <li>・研究者、愛好家にデータの提供を依頼しリストを補完する</li> <li>・「資料編」のデータ編集と執筆を行う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・リスト類、調査地地図、確認種の分布図などを作成する。</li> <li>・写真の分類、整理を行う。</li> </ul> </li> <li>・市史研究第3号への投稿 <ul style="list-style-type: none"> <li>・木更津市の魚類・3（淡水魚）を予定</li> </ul> </li> <li>・クモ・甲虫・カメムシ・ハエ・蛾類等の種目録データのための現地調査・文献調査、標本採集から写真撮影重視の調査法に変更</li> <li>・市史研究投稿に向けての調査 <ul style="list-style-type: none"> <li>・木更津市のトンボ類(予定)</li> </ul> </li> <li>・淡水生物（水生昆虫・淡水貝類・原生生物等）の文献調査・現地調査を進める。 特に、アメンボ類の市内全域現地調査の実施)</li> <li>・市立図書館自然科学蔵書の文献調査</li> </ul> <p>植物分野</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県立中央博物館との植物合同調査 残りメッシュ数:34 3月以後、7回・・・9or10月で終了の見込み その後については調査時に協議</li> <li>・巨樹・巨木調査 3月以後、2回／月 20本／回 残り10～12回 年度内には現地調査は終了の見込み</li> </ul>
--	---



## 第2回木更津市史編集委員会 出席者名簿

開催日時：平成31年3月26日(火) 午後3時00分～4時30分

会 場：木更津市役所朝日庁舎 会議室E

	氏名	役職	専門分野等	出欠状況
1	すぎやま しげつぐ 杉山 林継	委員長	考古学、神道学	出席
2	なりた あつひこ 成田 篤彦	副委員長	自然（動物生態学）	出席
3	いしわだ ひでゆき 石和田 秀幸	委員	古代史	出席
4	いけだ しのぶ 池田 忍	委員	中世史・美術史・ジェンダー史	欠席
5	かわと たかし 川戸 貴史	委員	中世史	出席
6	じつかた ゆうすけ 寛形 裕介	委員	近世史	出席
7	しまだて りこ 島立 理子	委員	民俗学・近代史	出席
8	たにはた みほ 谷畑 美帆	委員	考古学、人類学	出席
9	ほりきり よしひこ 堀切 由彦	委員	郷土博物館金のすず館長	出席
10	いしい ひろのり 石井 宏典	委員	企画部次長	欠席

(敬称略・順不同)

出席者：8名